恩師のいま

薗村 栄子 先生
SONOMURA EIKO

学校とはすっかり離れ、今は老猫との静かな暮らしです。

一方、ステイホームのおかげで、海外にできた友人とオンラインで話すようにもなりました。最近、感じることですが、テレビや新聞だけでは正しい情報が得られないこと、言論の自由が極度になくなってきていること、フェイクと真実を見分ける目をもつことの必要性など、今まで考えても来なかったことに直面して唖然としています。

このような世の中になっても、昔の懐かしい繋がりは私たちにとっては本当に大切なものです。若いころの笑顔に再会することで、日ごろのストレスから解放される瞬間が訪れるかもしれません。私も皆さんとの再会を楽しみにしつつ、もうしばらくは元気でいようと思います。

池内 光宏 先生
IKEUCHI MITSUHIRO

大変楽しみにしておりました昨年の卒業式・入学式も学校に伺えず残念な思いをいたしました。

今年こそは・・・と思いましたが、年齢との戦いで、思うようにいかない日々です。
年齢も83歳となり、日々健康維持との戦いです。

コロナ禍で先が見通せない社会でも臆せず、自分で考え、行動し、一人で悩まないで！恐れることなく道を切りひらいてほしいと思います。私たち教職員達は、いつも温かく見守っていることをどうか忘れないでください。私は、くじけそうな時は、卒業生の皆様や同志の先生方との対面を楽しみに心震わせ、もう少し頑張ってみようと思います。一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

石川 陽運 先生
ISHIKAWA HARUYUKI

「親の恩」「師の恩」「社会の恩」と言います。つくづく考えてみると、今私がこうして穏やかに生活していけるのは、本当にたくさんの方々の、直接間接の支えと授けのお蔭なのだと素直に思います。「人は高齢になると、『キョウイク』と『キョウヨウ』がとても大切である」と、何かの本で読んだことがあります。「教育」と「教養」ではなく、「今日行くところがあること」と「今日やるべき用事があること」ということでした。老け込みがちな年寄りへの戒めと励ましだと思えば「なるほど」と頷けます。

最後に、これが一番伝えたかったことです。「ありったけの愛をこめて、伝えたい『ありがとう』」。皆さんいつまでもお元気で。

阪本 龍夫 先生
SAKAMOTO TATSUO

定年退職し、手を振る演劇部員に見送られて追坂を走り去ってから、もう6年が過ぎました。仰星での3年目、中学3年生が高校生となり、5人の仲間を集めてくれ、仰星高校演劇部としての活動が始まりました。 7月にはHPF、9月の文化祭、そして11月のコンクール。冬には私学芸術文化祭典に出演。追手門学院の時と同じようなスケジュールでした。違うのはまだ部室もなく、機材もわずかしかないこと。

昨年の府大会では、追手門学院、追手門学院大手前と大阪仰星の3校がそろい踏みでした。近畿大会に進む1校に追手門学院が選ばれました。見慣れた制服が喜んでいる姿。横では泣いている仰星の部員たち。何とも複雑な心境でした。夢は「目指せ、全国」です。

今回は山桜会ホームページ「コラム」に投稿頂いた記事を転載させていただきました。
誌面の都合で全文の掲載ができておりません事をお詫び申し上げます。
以下のリンクから山桜会ホームページにアクセス頂き、全文をご覧いただきたく存じます。

https://yamazakurakai.com/archives/category/column/topics/teacher-new